

# 歯科口腔外科学

## 1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	5 人	
研修医	4 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	4 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	20 人	

## 2 教員の異動状況

- 加藤 文度（教授）（H23.12.1～現職）  
 長田 哲次（病院准教授）（H24.11.1～現職）  
 増本 一真（講師）（H22.8.1～現職）  
 渡邊 賀子（助教）（H22.8.1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	1.69	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Matsubara R, Kawano S, Chikui T, Goto Y, Hirano M, Jinno T, Nagata T, Oobu K, Abe K, Nakamura S: Clinical significance of combined assessment of the maximum standardized uptake value of F-18 FDG PET with nodal size in the diagnosis of cervical lymph node metastasis of oral squamous cell carcinoma. Acad Radiol 19: 708-717, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 1.69 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 渡邊賀子、林祐太郎、平野智昭、村口優行、内山佳之、増本一真、長田哲次、加藤文度：化学療法が重大な歯の形成障害をもたらしたと考えられる小児の1例。小児口腔外科学会雑誌 22 巻 1 号 45-48 2012.

インパクトファクターの小計 [ ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### 4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	4 件	(310 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 加藤文度（代表者） 基盤研究（C）口腔癌における樹状細胞の役割の解析 110 万円（継続）

2. 長田哲次（代表者） 基盤研究（C） 顕微質量分析による口腔癌の予後および転移マーカーの研究・分子病理診断法の開発 40万円 （継続）
3. 増本一真（代表者） 基盤研究（C） 高分子ナノミセル型インドシアニングリーンを用いたがん診断・治療技術の開発 80万円 （継続）
4. 渡邊賀子（代表者） 若手研究（B） 口腔扁平上皮癌胞巣内における PD1 陽性 CD8 陽性制御性 T 細胞の役割の解明 80万円 （継続）

- (2) 厚生労働科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成
- (4) 財団助成金
- (5) 受託研究または共同研究

## 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

- (1) 国際学会等開催・参加
  - 1) 国際学会・会議等の開催
  - 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
  - 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
  - 4) 国際学会・会議等での座長
  - 5) 一般発表
    - 口頭発表
    - ポスター発表
- (2) 国内学会の開催・参加
  - 1) 主催した学会名
  - 2) 学会における特別講演・招待講演
  - 3) シンポジウム発表
  - 4) 座長をした学会名
- (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国

学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件
-------------------	-----	-----

- (1) 国内の英文雑誌等の編集
- (2) 外国の学術雑誌の編集
- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

## 9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

- (1) 国際共同研究
- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

## 10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 口腔癌における再建外科

広範囲の切除を必要とする口腔癌の手術において、その術後の機能的、形態的な面から、再建手術を必要とする症例が多い。現在、おもに、軟組織のみの症例に関しては血管柄付き大腿外側皮弁、下顎骨離断が必要な症例に関しては、血管柄付き腓骨皮弁による再建術を行っている。特に、腓骨皮弁に関しては、インプラント植立による補綴処置をすすめており、咬合の回復も図っている。再建により、どの程度の機能回復が見込めるかを検討している。

### 2. 口腔扁平上皮癌における超選択的動注化学療法の有用性

術前化学療法として、浅側頭動脈から逆行性にカテーテルを留置し、超選択的な動注化学療法を行っている。化学療法による効果、副作用、術後の予後に関し、現在検討を行っている。

### 3. 口腔扁平上皮癌における免疫細胞の役割

口腔扁平上皮癌において、様々な種類の免疫細胞の浸潤が認められることを、これまでに明らかにしてきている。今後さらに検討をすすめ、将来的には、癌免疫療法等への応用を目指している。

- 13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発
- 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性
- 15 新聞, 雑誌等による報道